



平成 26 年 4 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社西武ホールディングス
 代 表 者 取締役社長 後藤 高志
 (コード番号 : 9024 東証一部)
 問 合 せ 先 執行役員広報部長 西山 隆一郎
 (TEL. 04-2926-2645)

東京証券取引所市場第一部上場にもなう当社決算情報などのお知らせ

当社は、本日、平成 26 年 4 月 23 日に東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。今後とも、一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社グループにおける平成 26 年 3 月期の実績見込みおよび平成 27 年 3 月期の業績予想は次のとおりであり、また、最近の決算情報などは別添のとおりであります。

【連結】

(単位：百万円、%)

| 項目 | 平成 27 年 3 月期 (予想) | | | 平成 26 年 3 月期 (実績見込み) | | | 平成 25 年 3 月期 (実績) | | 平成 26 年 3 月期 第 3 四半期累計期間 (実績) | |
|---------------------|----------------------|-------|------------|-------------------------|-------|------------|----------------------|-------|-------------------------------------|-------|
| | | 構成比 | 対前期 増減率 | | 構成比 | 対前期 増減率 | | 構成比 | | 構成比 |
| 営業収益 | 488,199 | 100.0 | 3.3 | 472,475 | 100.0 | 2.9 | 459,220 | 100.0 | 352,107 | 100.0 |
| 営業利益 | 48,389 | 9.9 | 9.7 | 44,106 | 9.3 | 10.0 | 40,114 | 8.7 | 38,570 | 11.0 |
| 償却前営業利益 | 89,546 | 18.3 | 6.5 | 84,096 | 17.8 | 4.9 | 80,162 | 17.5 | 67,873 | 19.3 |
| 経常利益 | 39,436 | 8.1 | 12.3 | 35,120 | 7.4 | 14.3 | 30,733 | 6.7 | 31,701 | 9.0 |
| 当期(四半期)純利益 | 27,340 | 5.6 | 67.2 | 16,355 | 3.5 | 4.8 | 15,608 | 3.4 | 19,763 | 5.6 |
| 1株当たり当期 (四半期)純利益 | 79円91銭 | | | 47円81銭 | | | 45円63銭 | | 57円78銭 | |
| 1株当たり配当金 | (注) 3 | | | 6円00銭 | | | 7円00銭 (注) 3 | | — | |

- (注) 1. 平成 25 年 3 月期 (実績) および平成 26 年 3 月期第 3 四半期累計期間 (実績) の 1 株当たり当期 (四半期) 純利益は、期中平均発行済株式数により算出し、平成 26 年 3 月期 (実績見込み) および平成 27 年 3 月期 (予想) の 1 株当たり当期純利益は、予定期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費を加えて算定しております。
3. 平成 25 年 3 月期 (実績) の 1 株当たり配当金には、グループの西武鉄道株式会社とその前身である武蔵野鉄道株式会社設立から 100 周年を迎えたことを記念した 1 株当たり 1 円の記念配当が含まれております。また、当社は、グループ全体の経営基盤の強化や企業価値向上をはかり、内部留保を充実させることで財務体質を強化し、安定した配当を継続的にこなうことを基本方針とするとともに、「西武グループ長期戦略」における財務戦略において、ステークホルダー (お客さま・株主・債権者・従業員など) への還元と、成長に資する投資の実施を最適なバランスで行っていくことを方針として定めており、平成 27 年 3 月期 (予想) において配当を予定しておりますが、具体的な配当金については現時点では未定です。
4. 平成 26 年 3 月期 (実績見込み) につきましては、当社子会社に対する訴訟判決を踏まえた特別損失の計上により、平成 26 年 3 月 19 日に発表した予想数値を平成 26 年 4 月 2 日付で見直し公表した内容です。
5. 平成 26 年 3 月期 (実績見込み) および平成 27 年 3 月期 (予想) につきましては、その重要性に鑑み、連結業績見通しのみを開示し、個別の業績見通しについては開示いたしません。

[添付資料] (ご参考) 業績予想の考え方

【平成26年3月期実績見込み】

国内景気の回復や訪日外国人旅行者の増加などを背景として、各種営業施策を実施したことなどにより、平成25年3月期における実績を上回る水準での着地を見込んでおります。

【平成27年3月期業績予想】

消費税増税による消費マインドへの影響や、資材・原油価格の高騰など不透明な要素が存在するものの、緩やかな景気回復傾向や2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定による期待感など、良好な事業環境は継続するものと見込んでおります。また、各事業セグメントにおいて、このような事業環境を踏まえた施策を織り込んでおります。

【セグメント別 償却前営業利益予想】

(単位：億円、%)

| 決算期 セグメント名 | 平成27年3月期 (予想) | | 平成26年3月期 (実績見込み) | | 平成25年3月期 (実績) | |
|---------------|------------------|------------|---------------------|------------|------------------|------------|
| | | 前期比 増減率 | | 前期比 増減率 | | 前期比 増減率 |
| 都市交通・沿線事業 | 441 | 3.1 | 428 | △3.3 | 443 | 3.2 |
| ホテル・レジャー事業 | 218 | 12.8 | 193 | 18.3 | 163 | 26.9 |
| 不動産事業 | 170 | 1.0 | 168 | 5.3 | 160 | △0.7 |
| 建設事業 | 13 | 0.7 | 13 | 607.0 | 2 | 146.5 |
| ハワイ事業 | 11 | 297.1 | 3 | - | △1 | - |
| その他 | 33 | △6.4 | 35 | 3.0 | 34 | 29.5 |
| 合計 | 885 | 5.5 | 839 | 4.9 | 800 | 8.1 |
| 調整額 | 10 | 580.0 | 1 | 5.2 | 1 | △91.3 |
| 連結数値 | 895 | 6.5 | 841 | 4.9 | 802 | 6.0 |

(注) 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年4月23日

会社名 株式会社西武ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9024 URL <http://www.seibuholdings.co.jp/>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）後藤 高志 TEL 04-2926-2645
 問合せ先責任者（役職名）執行役員広報部長（氏名）西山 隆一郎 配当支払開始予定日 —
 四半期報告書提出日 平成26年2月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|---------|-----|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 26年3月期第3四半期 | 352,107 | 1.4 | 38,570 | 14.4 | 31,701 | 20.1 | 19,763 | 39.3 |
| 25年3月期第3四半期 | 347,221 | 9.1 | 33,711 | 33.8 | 26,391 | 67.2 | 14,191 | 75.4 |

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 32,206百万円 (85.1%) 25年3月期第3四半期 17,396百万円 (153.4%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 26年3月期第3四半期 | 57.78 | — |
| 25年3月期第3四半期 | 41.49 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|-----------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 26年3月期第3四半期 | 1,412,154 | 271,683 | 19.1 |
| 25年3月期 | 1,403,025 | 242,044 | 17.1 |

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 270,046百万円 25年3月期 240,536百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年3月期 | — | 2.50 | — | 4.50 | 7.00 |
| 26年3月期 | — | 3.00 | — | — | — |
| 26年3月期（予想） | — | — | — | 3.00 | 6.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 25年3月期期末配当金の内訳 記念配当 1円00銭

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、通期は対前期)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 償却前営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|-----|--------|------|---------|-----|--------|------|--------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 472,475 | 2.9 | 44,106 | 10.0 | 84,096 | 4.9 | 35,120 | 14.3 | 16,355 | 4.8 | 47.81 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 — 社（社名 —）、除外 — 社（社名 —）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 26年3月期3Q | 342,124,820株 | 25年3月期 | 342,124,820株 |
| ② 期末自己株式数 | 26年3月期3Q | 67,450株 | 25年3月期 | 67,144株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 26年3月期3Q | 342,057,498株 | 25年3月期3Q | 342,059,291株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び不確実な要因に係る仮定を前提として作成しており、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

業績予想に関する事項については、[添付資料]「（ご参考）業績予想の考え方」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 6 |
| 2. 四半期連結財務諸表 | 7 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 7 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 9 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 11 |
| (セグメント情報等) | 11 |
| 3. 補足情報 | 12 |
| (1) 鉄道事業運輸成績 | 12 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策への期待感などから、緩やかな景気回復傾向にあります。先行きについては、東京オリンピック・パラリンピック開催決定による期待感などがあるものの、消費税増税による消費マインドへの影響や資材、原油の高騰などの要因もあり不透明感が残る状況であります。

このような状況のなか、グループビジョンの実現のための基本構想であり、当社グループが概ね10年間で目指していく方向性を示した西武グループ長期戦略に基づき、当社グループが保有する経営資源の有効活用をおこないながら、様々な事業・サービスを組み合わせ提供できる領域・付加価値を拡大し、あらゆる場面でお客様の生活を応援していく企業となることで、グループビジョンを通じた企業価値の極大化をはかってまいります。特に当第3四半期連結累計期間においては、グループ経営戦略としてグループの持つ強みに焦点を合わせ、各事業における具体的な目標達成に向けて「新たな視点によるイノベーション」をキーワードに柔軟な発想により「既存事業の強化」と「長期的な事業基盤の確立」に取り組んでまいりました。

グループの一大プロジェクトであるグランドプリンスホテル赤坂跡地の開発計画「（仮称）紀尾井町計画」を引き続き推進したほか、遊休地などの活用の一環として、電力需要に対応し、社会貢献を果たすべく、大規模太陽光発電（メガソーラー）事業に参入いたしました。なお、株式会社プリンスホテルにおいて、「プリンスエナジーエコファーム南郷」の稼働を開始しております。また、お客様の生活を応援するための取り組みとして、様々な生活体験の場をご提供する「西武塾」を開校し、「西武グループ子ども応援プロジェクト」を推進したほか、祖父母が孫と過ごす機会増加をはかる「孫旅」を推進するプランを株式会社プリンスホテルにおいて販売するなど、シニア層向けの施策をグループ各社において展開してまいりました。

当第3四半期連結累計期間における経営成績の概況は、営業収益は、3,521億7百万円と前年同期に比べ48億85百万円の増加（前年同期比1.4%増）となり、営業利益は、385億70百万円と前年同期に比べ48億58百万円の増加（同14.4%増）となり、償却前営業利益は、678億73百万円と前年同期に比べ47億1百万円の増加（同7.4%増）となりました。経常利益は、317億1百万円と前年同期に比べ53億9百万円の増加（同20.1%増）となりました。四半期純利益は、197億63百万円と前年同期に比べ55億72百万円の増加（同39.3%増）となりました。

各セグメントにおける業績は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

| セグメントの名称 | 営業収益 | | | 営業利益 | | | 償却前営業利益 | | |
|------------|------------------|-------------|------------------|------------------|-------------|------------------|------------------|-------------|------------------|
| | 当第3四半期 連結累計期間 | 前年同期比 増減 | 前年同期比 増減率 (%) | 当第3四半期 連結累計期間 | 前年同期比 増減 | 前年同期比 増減率 (%) | 当第3四半期 連結累計期間 | 前年同期比 増減 | 前年同期比 増減率 (%) |
| 都市交通・沿線事業 | 117,031 | △2,563 | △2.1 | 18,740 | 349 | 1.9 | 34,655 | △419 | △1.2 |
| ホテル・レジャー事業 | 128,210 | 6,867 | 5.7 | 6,744 | 2,196 | 48.3 | 14,749 | 2,211 | 17.6 |
| 不動産事業 | 34,815 | △5,101 | △12.8 | 10,728 | 501 | 4.9 | 13,336 | 623 | 4.9 |
| 建設事業 | 61,815 | 5,019 | 8.8 | 484 | 1,375 | — | 689 | 1,362 | — |
| ハワイ事業 | 9,033 | 2,123 | 30.7 | △559 | 515 | — | 493 | 598 | — |
| その他 | 30,308 | 656 | 2.2 | 2,057 | 205 | 11.1 | 3,818 | 426 | 12.6 |
| 合計 | 381,212 | 7,001 | 1.9 | 38,194 | 5,141 | 15.6 | 67,740 | 4,802 | 7.6 |
| 調整額 | △29,104 | △2,115 | — | 375 | △282 | △42.9 | 133 | △100 | △42.9 |
| 連結数値 | 352,107 | 4,885 | 1.4 | 38,570 | 4,858 | 14.4 | 67,873 | 4,701 | 7.4 |

- (注) 1 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。
2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費を加えて算定しております。

(都市交通・沿線事業)

都市交通・沿線事業の内訳は鉄道業、バス業、沿線レジャー業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

| | 平成25年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 平成26年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 増減額 |
|---------|-----------------------------|-----------------------------|--------|
| 営業収益 | 119,594 | 117,031 | △2,563 |
| 鉄道業 | 77,696 | 76,242 | △1,454 |
| バス業 | 18,479 | 18,864 | 385 |
| 沿線レジャー業 | 18,226 | 16,674 | △1,552 |
| その他 | 5,193 | 5,251 | 58 |

鉄道業では、前連結会計年度に実施した東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転や沿線の重要な観光拠点である秩父への誘客を企図したテレビCMの効果に加え、雇用情勢が好転したことなどにより、定期旅客・定期外旅客ともに好調に推移し、旅客輸送人員は前年同期比0.8%増（うち定期1.0%増、定期外0.6%増）、旅客運輸収入は前年同期比0.8%増（うち定期0.7%増、定期外1.0%増）となりました。このような状況のなか、安全の確保を最重要課題としてとらえハード・ソフト両面にわたる取り組みを実施したほか、お客さまの利便性の向上にも努めてまいりました。安全への取り組みとしては、ATS（自動列車停止装置）の更新や池袋線連続立体交差事業において、石神井公園～大泉学園駅間の下り線を高架に切り換える工事を実施し、平成25年11月24日の初電車より高架線の使用を開始いたしました。この工事により、下り線高架区間にある3か所の踏切の遮断時間が約4割減少いたしました。利便性向上への取り組みとしては、所沢駅改良工事において、中央自由通路と南側自由通路をつなぐ連絡通路の使用を開始したほか、特急レッドアロー号チケットレスサービス「Smooth（スムーズ）」を開始するなど、お客さまの満足度向上に努めてまいりました。また、所沢駅において、屋上スペースを芝生や低木で緑化するとともに、風力発電外灯や雨水利用灌水装置を設置するなど、環境に配慮した屋上庭園「トコニワ」を開発いたしました。そのほか、沿線観光地である秩父及び川越の魅力を発信すべく、秩父において、秩父を舞台とした短編映画の上映をおこなう「ちちぶ映画祭」を開催したほか、川越において、世界のビールや川越の地ビールなどが楽しめる「川越WORLD BEER & OKTOBERFEST」を開催いたしました。

バス業では、路線バス、高速バスともに好調に推移いたしました。このような状況のなか、新規商業施設開業にあわせてシャトルバスの運行を開始したほか、グループのスキー場への送客策として冬季限定高速路線バスを運行するなど、さらなる利便性向上に努めてまいりました。

沿線レジャー業では、としまえんや西武園ゆうえんちにおいて、夏季のプール営業が好調に推移したことに加え、冬季には、イルミネーションイベントを開催するなど、積極的な営業施策を展開し、旅客誘致に努めてまいりました。

これらの結果、都市交通・沿線事業の営業収益は、相互直通運転による乗入車両の使用料見直しなどにより、1,170億31百万円と前年同期に比べ25億63百万円の減少（同2.1%減）となったものの、営業利益は、引き続き業務の効率化やコスト削減を進めたことなどにより、187億40百万円と前年同期に比べ3億49百万円の増加（同1.9%増）となり、償却前営業利益は、346億55百万円と前年同期に比べ4億19百万円の減少（同1.2%減）となりました。

（ホテル・レジャー事業）

ホテル・レジャー事業の内訳はホテル業（シティ）、ホテル業（リゾート）、ゴルフ場業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

| | 平成25年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 平成26年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 増減額 |
|------------|-----------------------------|-----------------------------|-------|
| 営業収益 | 121,343 | 128,210 | 6,867 |
| ホテル業（シティ） | 69,366 | 73,220 | 3,854 |
| ホテル業（リゾート） | 25,199 | 26,779 | 1,580 |
| ゴルフ場業 | 10,369 | 10,329 | △40 |
| その他 | 16,410 | 17,883 | 1,474 |

- （注） 1 ホテル業（シティ）には主に大都市圏の中心商業地域やターミナル及びその周辺地域に立地するホテルを含んでおります。ホテル業（リゾート）には主に観光地や避暑地に立地するホテルを含んでおります。
- 2 以降の項目において、ホテル業（シティ）に属するホテルを「シティ」、ホテル業（リゾート）に属するホテルを「リゾート」と称する場合があります。

ホテル業全体では、景況感の好転を踏まえ、レベニューマネジメントを引き続き強化し、平均販売室料を重視した施策を推進したことにより、RevPAR（注）が前年同期比で増加いたしました。

（注）RevPARとは、Revenue Per Available Roomの略であり、宿泊に係る収入を客室総数で除したものであります。

ホテル業（シティ）では、前連結会計年度から取り組んでいる現地商談会の実施や外国語WEBサイトのリニューアルなどの効果により、インバウンドを中心とした宿泊需要が好調に推移いたしました。また、宴会需要についても、ブライダルを中心に好調に推移いたしました。このような状況のなか、MICE（注）を中心とした宴会の営業強化に引き続き努めたほか、競争力の維持、強化をはかるべく、新横浜プリンスホテルの客室や品川プリンスホテルの宴会場の一部をリニューアルいたしました。さらに、ザ・プリンスさくらタワー東京において、客室、エントランス、ロビー、宴会場をリニューアルしたことに加え、マリオット・インターナショナルと連携し独自性を持つホテルからなる「オートグラフ・コレクション」に日本のホテルとして初めて加盟し、営業状況は好調に推移しております。

（注）MICEとは、企業などの会議（Meeting）、企業などがおこなう報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会などがおこなう国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称であります。

ホテル業（リゾート）では、軽井沢エリアを中心に好調に推移いたしました。このような状況のなか、軽井沢エリアにおいて、今後増加が見込まれる需要を取り込み、収益拡大をはかるべく、長期滞在利用も想定した別荘型宿泊施設「ヴィラ」20棟、サービス提供施設「センターハウス」1棟で構成される「ザ・プリンス ヴィラ 軽井沢」の建設工事を進めております。なお、当該施設は、「ザ・プリンス」を冠した国内5つ目のホテルとして平成26年夏の開業を予定しております。

ゴルフ場業では、プレー人口が継続して減少する一方で、景況感の回復などから法人需要の増加が見込まれております。このような状況のなか、法人需要の取り込み強化、お客様のニーズにあわせた施設を提供するべく、瀬田ゴルフコースのクラブハウスを建替えたほか、軽井沢72ゴルフの東コースにおいて、6スパンに分割可能で、最大200名規模まで利用可能なコンペルームを兼ね備えた新たなクラブハウスの建設工事を進めております。なお、当該施設は、平成26年夏の開業を予定しております。

そのほか、株式会社プリンスホテルとして初めての試みとなる大学内レストランを大正大学内にオープンいたしました。今後も新規分野への積極的参画により事業拡大をはかってまいります。

これらの結果、ホテル・レジャー事業の営業収益は、1,282億10百万円と前年同期に比べ68億67百万円の増加（同5.7%増）となり、営業利益は、67億44百万円と前年同期に比べ21億96百万円の増加（同48.3%増）となり、償却前営業利益は、147億49百万円と前年同期に比べ22億11百万円の増加（同17.6%増）となりました。

(不動産事業)

不動産事業の内訳は不動産賃貸業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

| | 平成25年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 平成26年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 増減額 |
|--------|-----------------------------|-----------------------------|--------|
| 営業収益 | 39,916 | 34,815 | △5,101 |
| 不動産賃貸業 | 20,634 | 21,291 | 657 |
| その他 | 19,282 | 13,524 | △5,758 |

不動産賃貸業では、西武新宿ペペの2階、3階、新横浜プリンスペペの地下1階～2階およびBIGBOX高田馬場の1階、2階を改装し、既存施設の魅力向上を進めてまいりました。また、池袋線石神井公園駅周辺開発エリアの名称を「エミナード石神井公園」として「エミオ石神井公園」をはじめとした商業店舗等をオープンしたほか、多摩川線武蔵境駅において「エミオ武蔵境」を増床オープンいたしました。このように、商業施設や駅テナントなどを中心に安定的な賃料収入を確保しながら事業を進めてまいりました。また、賃貸住宅「(仮称)エミリブ南池袋」及び「(仮称)エミリブ練馬豊玉」の建設工事について着手したほか、平成26年夏を開業予定とする軽井沢・プリンスショッピングプラザの第7期増床計画について、建設工事を進めております。

そのほか、西武鉄道沿線エリア・湘南エリアにお住まいのお客さまにご満足いただける住環境の提供を推進するとともに、沿線への住み替えの流れを促すべく、家事代行サービス、住み替えやリフォームなどに関する総合的な窓口「ほほえみライフ」を、小手指、飯能日高、横須賀の3拠点で開設したほか、住環境に恵まれた練馬区早宮で西武の戸建住宅「西武・練馬早宮」(9邸)の販売を開始いたしました。

これらの結果、前年同期に大規模分譲マンションの販売があったことから、不動産事業の営業収益は、348億15百万円と前年同期に比べ51億1百万円の減少(同12.8%減)となったものの、営業利益は、コスト削減に努めたことなどにより、107億28百万円と前年同期に比べ5億1百万円の増加(同4.9%増)となり、償却前営業利益は、133億36百万円と前年同期に比べ6億23百万円の増加(同4.9%増)となりました。

(建設事業)

建設事業の内訳は建設業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

| | 平成25年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 平成26年3月期 第3四半期 連結累計期間 | 増減額 |
|------|-----------------------------|-----------------------------|-------|
| 営業収益 | 56,796 | 61,815 | 5,019 |
| 建設業 | 40,497 | 43,689 | 3,191 |
| その他 | 16,299 | 18,126 | 1,827 |

建設業では、鉄道工事や分譲住宅の建設、公共工事の施工、除染関連工事を進めたほか、厳正な受注管理や継続的な与信管理に加え、原価管理についても強化に努めてまいりました。

これらの結果、建設事業の営業収益は、618億15百万円と前年同期に比べ50億19百万円の増加(同8.8%増)となり、営業利益は、4億84百万円と前年同期に比べ13億75百万円の改善(前年同期は、営業損失8億91百万円)となり、償却前営業利益は、6億89百万円と前年同期に比べ13億62百万円の改善(前年同期は、償却前営業損失6億73百万円)となりました。

(ハワイ事業)

ハワイ事業では、前年同期を上回る来島者数で推移するなか、レベニューマネジメントに引き続き取り組むとともに、お客さまのニーズをとらえた各種施策を実施いたしました。また、保有不動産の売却を実施いたしました。

これらの結果、ハワイ事業の営業収益は、90億33百万円と前年同期に比べ21億23百万円の増加(同30.7%増)となり、営業損失は、5億59百万円と前年同期に比べ5億15百万円の改善(前年同期は、営業損失10億74百万円)となり、償却前営業利益は、4億93百万円と前年同期に比べ5億98百万円の改善(前年同期は、償却前営業損失1億5百万円)となりました。

（その他）

伊豆箱根事業では伊豆・箱根エリアを主な営業エリアとして、近江事業では滋賀県琵琶湖エリアを主な営業エリアとして、それぞれの地域に根ざした事業を展開してまいりました。伊豆箱根事業においては、地域に必要とされる企業を目指し、介護サービス事業への参入を決定いたしました。近江事業においては、平成26年夏を開業予定とする近江八幡駅前ビルの建築工事に着手いたしました。

西武ライオンズでは、クライマックスシリーズファーストステージへの進出に加え、埼玉県及び西武鉄道沿線を対象とした市民感謝デーを実施するなど積極的な営業施策を展開したことなどにより、多くのお客さまにご来場いただきました。また、西武ドームエリアの活性化の一環として、野球開催日以外にコンサートを誘致するなど営業強化に努めてまいりました。

これらの結果、営業収益は、303億8百万円と前年同期に比べ6億56百万円の増加（同2.2%増）となり、営業利益は、20億57百万円と前年同期に比べ2億5百万円の増加（同11.1%増）となり、償却前営業利益は、38億18百万円と前年同期に比べ4億26百万円の増加（同12.6%増）となりました。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、[添付資料]「（ご参考）業績予想の考え方」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年 3 月31日) | 当第 3 四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|---------------------------|---------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 19,508 | 21,766 |
| 受取手形及び売掛金 | 45,550 | 42,537 |
| 分譲土地建物 | 11,157 | 10,301 |
| 商品及び製品 | 1,441 | 1,187 |
| 未成工事支出金 | 4,775 | 8,120 |
| 原材料及び貯蔵品 | 2,327 | 3,025 |
| 繰延税金資産 | 3,932 | 1,927 |
| その他 | 12,292 | 12,937 |
| 貸倒引当金 | △757 | △540 |
| 流動資産合計 | 100,228 | 101,261 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 398,070 | 395,333 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 44,591 | 44,923 |
| 土地 | 743,546 | 745,143 |
| リース資産（純額） | 1,776 | 1,599 |
| 建設仮勘定 | 32,152 | 34,270 |
| その他（純額） | 9,123 | 8,869 |
| 有形固定資産合計 | 1,229,261 | 1,230,139 |
| 無形固定資産 | | |
| リース資産 | 255 | 182 |
| その他 | 7,627 | 7,270 |
| 無形固定資産合計 | 7,883 | 7,453 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 48,975 | 60,082 |
| 長期貸付金 | 357 | 350 |
| 繰延税金資産 | 9,194 | 6,277 |
| その他 | 10,976 | 10,409 |
| 貸倒引当金 | △3,852 | △3,819 |
| 投資その他の資産合計 | 65,650 | 73,300 |
| 固定資産合計 | 1,302,796 | 1,310,892 |
| 資産合計 | 1,403,025 | 1,412,154 |

| | 前連結会計年度 (平成25年 3 月31日) | 当第 3 四半期連結会計期間 (平成25年12月31日) |
|---------------|---------------------------|---------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 26,440 | 23,581 |
| 短期借入金 | 292,541 | 204,542 |
| 1年内償還予定の社債 | 10,000 | — |
| リース債務 | 571 | 512 |
| 未払法人税等 | 6,001 | 4,210 |
| 前受金 | 21,875 | 24,597 |
| 賞与引当金 | 5,033 | 2,348 |
| その他の引当金 | 2,891 | 2,851 |
| 資産除去債務 | 72 | 69 |
| その他 | 59,580 | 55,367 |
| 流動負債合計 | 425,009 | 318,081 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 494,391 | 582,399 |
| 鉄道・運輸機構長期未払金 | 47,987 | 45,520 |
| リース債務 | 1,342 | 1,199 |
| 繰延税金負債 | 124,119 | 125,527 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 14,627 | 14,624 |
| 退職給付引当金 | 30,284 | 29,390 |
| 役員退職慰労引当金 | 1,231 | 1,320 |
| その他の引当金 | 2,381 | 2,388 |
| 資産除去債務 | 1,591 | 1,574 |
| その他 | 18,013 | 18,446 |
| 固定負債合計 | 735,970 | 822,389 |
| 負債合計 | 1,160,980 | 1,140,471 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 50,000 | 50,000 |
| 資本剰余金 | 129,172 | 129,172 |
| 利益剰余金 | 36,690 | 53,888 |
| 自己株式 | △67 | △67 |
| 株主資本合計 | 215,794 | 232,992 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 12,628 | 19,753 |
| 土地再評価差額金 | 17,666 | 17,666 |
| 為替換算調整勘定 | △5,553 | △366 |
| その他の包括利益累計額合計 | 24,741 | 37,053 |
| 少数株主持分 | 1,508 | 1,637 |
| 純資産合計 | 242,044 | 271,683 |
| 負債純資産合計 | 1,403,025 | 1,412,154 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日) |
|-------------------|--|--|
| 営業収益 | 347,221 | 352,107 |
| 営業費 | | |
| 運輸業等営業費及び売上原価 | 291,554 | 291,332 |
| 販売費及び一般管理費 | 21,955 | 22,204 |
| 営業費合計 | 313,510 | 313,537 |
| 営業利益 | 33,711 | 38,570 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 7 | 7 |
| 受取配当金 | 465 | 483 |
| バス路線運行維持費補助金 | 384 | 395 |
| 持分法による投資利益 | 69 | 31 |
| 貸倒引当金戻入額 | 97 | 226 |
| その他 | 1,586 | 982 |
| 営業外収益合計 | 2,611 | 2,126 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 9,408 | 8,228 |
| その他 | 523 | 767 |
| 営業外費用合計 | 9,931 | 8,995 |
| 経常利益 | 26,391 | 31,701 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 42 | 534 |
| 工事負担金等受入額 | 8,976 | 3,496 |
| 補助金収入 | 144 | 124 |
| 投資有価証券売却益 | 0 | 4 |
| その他 | 96 | 8 |
| 特別利益合計 | 9,260 | 4,167 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 1,607 | 228 |
| 固定資産売却損 | 137 | 118 |
| 固定資産除却損 | 603 | 1,195 |
| 工事負担金等圧縮額 | 8,927 | 3,484 |
| 固定資産圧縮損 | 144 | 145 |
| その他 | 1,710 | 616 |
| 特別損失合計 | 13,131 | 5,789 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 22,521 | 30,079 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,761 | 7,980 |
| 法人税等調整額 | 2,624 | 2,204 |
| 法人税等合計 | 8,385 | 10,185 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 14,135 | 19,894 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | △55 | 131 |
| 四半期純利益 | 14,191 | 19,763 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日) | 当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 14, 135 | 19, 894 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 3, 526 | 7, 125 |
| 為替換算調整勘定 | △264 | 5, 187 |
| その他の包括利益合計 | 3, 261 | 12, 312 |
| 四半期包括利益 | 17, 396 | 32, 206 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 17, 452 | 32, 075 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | △55 | 131 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 都市交通 ・沿線事業 | ホテル・ レジャー 事業 | 不動産事業 | 建設事業 | ハワイ事業 | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------|---------------|--------------------|--------|--------|--------|--------------|---------|--------------|--------------------------------|
| 営業収益 | 119,594 | 121,343 | 39,916 | 56,796 | 6,910 | 29,653 | 374,211 | △26,989 | 347,221 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | 18,391 | 4,548 | 10,227 | △891 | △1,074 | 1,852 | 33,053 | 658 | 33,711 |

(注) 1 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業及び西武ライオンズを含んでおります。

2 セグメント利益又は損失 (△) の調整額658百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 都市交通 ・沿線事業 | ホテル・ レジャー 事業 | 不動産事業 | 建設事業 | ハワイ事業 | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------|---------------|--------------------|--------|--------|-------|--------------|---------|--------------|--------------------------------|
| 営業収益 | 117,031 | 128,210 | 34,815 | 61,815 | 9,033 | 30,308 | 381,212 | △29,104 | 352,107 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | 18,740 | 6,744 | 10,728 | 484 | △559 | 2,057 | 38,194 | 375 | 38,570 |

(注) 1 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業及び西武ライオンズを含んでおります。

2 セグメント利益又は損失 (△) の調整額375百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

3. 補足情報

(1) 鉄道事業運輸成績

グループ中核会社である連結子会社の西武鉄道株式会社における鉄道事業運輸成績は次のとおりであります。

① 鉄道事業輸送人員

(単位：千人)

| | 前第3四半期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日) | 当第3四半期 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日) | 比較増減 | 増減率 (%) |
|-----|--|--|-------|------------|
| 定期 | 289,611 | 292,374 | 2,762 | 1.0 |
| 通勤 | 217,513 | 220,305 | 2,792 | 1.3 |
| 通学 | 72,097 | 72,068 | △29 | △0.0 |
| 定期外 | 180,026 | 181,178 | 1,151 | 0.6 |
| 計 | 469,637 | 473,552 | 3,914 | 0.8 |

(注) 千人未満を切り捨てて表示しております。増減率(%)は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

② 鉄道事業旅客運輸収入

(単位：百万円)

| | 前第3四半期 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日) | 当第3四半期 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日) | 比較増減 | 増減率 (%) |
|----------|--|--|------|------------|
| 定期 | 31,643 | 31,858 | 214 | 0.7 |
| 通勤 | 28,651 | 28,878 | 226 | 0.8 |
| 通学 | 2,991 | 2,979 | △11 | △0.4 |
| 定期外 | 39,322 | 39,710 | 388 | 1.0 |
| (うち特急料金) | 2,238 | 2,371 | 132 | 5.9 |
| 計 | 70,965 | 71,568 | 602 | 0.8 |

(注) 百万円未満を切り捨てて表示しております。増減率(%)は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。